

めだか論語だより

R3. 5. 31 賀茂保育園

梅雨に入り、戸外に出られない日が多く、「また雨か〜」「外に出たいな〜」と子どもたちの声が聞こえてきます。恵みの雨ではありますが、子どもたちにとっては、この時期は大敵かもしれませんね。

さて、今年度も3歳以上児を中心に「めだか論語教室」を実施しています。4月から早速、園児たちの元気な声が合わさり、素晴らしい素読ができています。みんなで声を合わせる気持ちの良さを感じながら、論語への取り組みが定着することを期待しています。

教えて孔子先生！！

どうも孔子です。
子どもと一緒に論語に頑張るのじゃ！！
(ちなみに論語を作ったのはワシじゃなく弟子じゃ…)

Q 論語の素読ってなに？

昔から日本では先生に習い、大人も子どもも一緒になって素読する習慣があったのじゃ！意味はまだ分からなくても、繰り返し読んでいくうちに、その言葉の素晴らしいさに引き付けられていくのじゃぞ！
賀茂保育園の園児も毎日素読しているそうじゃ！偉い！！



「めだか論語教室」講師のご紹介

今年度も賀茂保育園の論語講師を務めていただく磯江公博先生です。楽しいお話や明るい雰囲気、子どもたちが楽しく参加できる論語の時間を作ってくださっています。今回は磯江先生の論語指導への思いを綴っていただきました。



新緑の山々にかこまれて

園児当番さんが前に出て、論語の約束『姿勢を正して、大きな声で、きちんと挨拶』から始まった賀茂保育園の論語教室も11年目となりました。最初の卒園児はもう高校生です。私の出番は毎月1回の論語教室ですが、担任の保育士さんはひと月に3つの章句を少しずつ園児に教えていきます。

論語に「君子は義に喩(さと)り、小人は利に喩る」という章句があります。人生には悩み、迷いが沢山あります。誰一人悩みのない人はいません。損か得か？義理を欠いても己の利益か？で迷ったときの判断基準がこれです。利は一時の満足感、成功は得られたとしても、誠実さ正直さを捨てて得られた利益は空しいものです。子どもたちと向き合うとき、正しいか、正しくないかのもの差を持ちたいものです。

毎月1回の論語教室での素読は、意味や内容を考えずに声を出して読むことです。意味は分からなくても繰り返し声を出して読んでいくうちに、漢文の美しいリズムが心に響き体の奥に蓄積されてきます。成長し、やがて意味が分かり理解が深まる時が来ます。正しい言葉は思考力や国語力の充実とともに、豊かな感性も育ててくれます。保育士さんの毎日の素読への取り組みが、心身共に充実した子どもたちの成長の源となることを願っています。新しく、ちゅうりっぷ組の子どもたちが加わって、新緑の山々でかこまれた賀茂保育園で論語教室が始まりました。

湯梨浜町 磯江公博